

番号	46	名称	万世橋
指定日	昭和5年(1930)9月	所在地	神田須田町一丁目25番地(神田川)
設計者		竣工	昭和5年(1930)



歴史・文化的特徴

初代の石橋は現在の橋よりやや上流にあり、通称めがね橋、などと呼ばれ親しまれていたが、旧万世橋駅建設のため、明治39年(1906)に解体されている。

現在の万世橋の位置には、明治17年(1884)に架けられた木橋があり、昌平橋→新万世橋→万世橋と名称を変えている。震災当時は屈指の繁華街であり、親柱のデザインなどにそれが反映されている。

震災復興橋梁である。

意匠・構造の特徴

簡素だが力強い鉄筋コンクリート造アーチ橋である。

巨大でアールデコ調の橋灯付きの親柱が特徴的であり、親柱自体がランドマーク的存在となっている。手すりは花柄の金属製である。路面も化粧舗装されている。

橋は直下を走る銀座線と一体で作られている。

周辺景観との関係

歩行者の視線からは、アールデコ調の親柱、花模様の手すりが目に入る。

橋上は開けた開放的な空間。複数の道路が集まる橋であり、周辺から橋がよく見える。親柱はランドマーク的存在となっている。煉瓦の旧万世橋駅高架橋と対比的な景観を形成している。

親柱や広々とした橋上の空間が、秋葉原電気街へのゲートの空間を演出している。

水面からは石造風の印象的なアーチをきれいにすることができる。

JR 総武線・中央線から旧万世橋とともに橋の全景をよく見ることができる。